

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4110115799		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームどんぐり		
所在地	佐賀市嘉瀬町中原1676-3		
自己評価作成日	平成31年2月26日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	www.kaigokensaku.mhlw.go.jp
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成31年3月26日	外部評価確定日	平成31年4月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

明るくアットホームな雰囲気の中、利用者や家族に寄り添い、意思を尊重して穏やかな生活ができるよう努めている。また利用者一人ひとりの有する力を活用し、役割を持って過ごしていただくことで生活意欲を高められるように努めている。主治医や訪問看護に状態報告を密に行い、医療と介護が連携して支援を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

田園風景の広がる住宅街の中に事業所はある。法人母体である病院に隣接しており、同一法人のクリニック(内科、リハビリテーション科、歯科など)、老人保健施設、訪問看護ステーション、通所介護などの施設があり、医療と介護の連携が図られている。研修などもそれぞれの専門を活かしたものとなっている。日常の介護においては「自宅に居るような心地良さ」をモットーに本人や家族の意見に耳を傾け、利用者が笑顔でその人らしく暮らせるように支援されている。昼食時には利用者と職員が一緒にテーブルで同じ食事を食べ、楽しい昼食時間となっている。食事の後の片付けもそれぞれのできることでの共同作業を実践されている。

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I . 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の目につくところに掲示し、定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	職員の目につくところに掲示し、定期的な会議などで繰り返し伝え、理念を全職員が共有できるようにしている。	理念については、職員の出入りの多いキッチンに掲示し、意識付けしている。また会議の場でも地域密着型サービスの意義を職員全員で確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めている。地域の運動会やお祭りに参加したり、下校時間に合わせて散歩に行き、下校途中の小学生ともあいさつを交わしたりして交流を深めている。	玄関前に花を置いたりして、散歩の途中に気軽に立ち寄って頂ける雰囲気作りに努めている。地域の運動会やお祭りに参加したり、下校時間に合わせて散歩に行き、下校途中の小学生ともあいさつを交わしたりして交流を深めている。	子供たちの下校時間に合わせて散歩に出たり、玄関の周囲は気軽に立ち寄れるよう、季節の花を飾ったりしている。地域の広報誌で行事などチェックして、利用者と話し合いながら出かけていくこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で、認知症の方の支援の方法等を話し、地域に向けて発信している。 相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。	運営推進会議で、認知症の方の支援の方法等を話し、地域に向けて発信している。 相談があれば認知症の人の、具体的な支援の方法を指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議を定期的に関き、当ホームの取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	運営推進会議は家族や、地区民生委員、行政職員をメンバーとされているが行政や地域からの参加が充分には得られていない。報告や情報交換が主な内容になっている。	運営推進会議は、外部の人々の目を通して事業所の取り組みや内容を具体的な改善課題を話し合ったり、地域の理解と支援を得るための貴重な機会です。積極的な取り組みを期待します。

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接な連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	行政担当者との定期的な情報交換が行われており、入所の相談などもある。行政の主催の研修会にも積極的に参加し顔の見える関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束についての研修を行っている。また、身体拘束委員会や、必要であればその都度、職員全員で話し合いながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、利用者の外出の際は職員が付き添い、一緒に散歩をしている。	定期的に身体拘束についての研修を行っている。また、身体拘束委員会や、必要であればその都度、職員全員で話し合いながらケアに取り組んでいる。玄関の施錠はしておらず、利用者の外出の際は職員が付き添い、一緒に散歩をしている。	権利擁護や身体拘束に関する勉強会を通して職員の共有認識を図っている。昼間は施錠せず、見守り声掛けを行い、安全面に配慮して自由な暮らしを支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。また成年後見制度を活用できるよう支援し、利用されていた。	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。また成年後見制度を活用できるよう支援し、利用されていた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書の内容を読み上げながら説明を行い、疑問点に回答し納得された上で、契約の締結を行っている。また、改定時にはその都度説明を行い同意を得ている。	契約時には、契約書及び重要事項説明書の内容を読み上げながら説明を行い、疑問点に回答し納得された上で、契約の締結を行っている。また、改定時にはその都度説明を行い同意を得ている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や希望などを気軽に話しやすくするために、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	意見や希望などを気軽に話しやすくするために、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	家族には月1回発行している施設便りや訪問時で常に問いかけ、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。出された意見や要望などは職員間で話し合い、反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	管理者は月1回の職員会議や日々の業務の中で職員の意見や提案などを聞き、出された意見や要望などは代表者にも伝え、反映に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せするなどしている。また勤務条件については、働きやすいよう個別で相談に応じている。	職員の努力や実績により、仕事を任せするなどしている。また勤務条件については、働きやすいよう個別で相談に応じている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	機会を捉えて研修会に参加を促している。また包括支援センターが開催されているネットワーク会議にも出席し、交流の機会を作っている。	機会を捉えて研修会に参加を促している。また包括支援センターが開催されているネットワーク会議にも出席し、交流の機会を作っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人に面会し、生活歴などの情報収集を行い、不安なことや要望等を聞くようにしている。入居時も本人の言葉に耳を傾け、安心して利用できるよう努めている。	入居前に本人に面会し、生活歴などの情報収集を行い、不安なことや要望等を聞くようにしている。入居時も本人の言葉に耳を傾け、安心して利用できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたときから継続して、利用者の情報収集をするとともに、家族の困っていることや不安、要望などを聞き、安心して利用開始できるよう関係づくりに努めている。	相談を受けたときから継続して、利用者の情報収集をするとともに、家族の困っていることや不安、要望などを聞き、安心して利用開始できるよう関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況을できるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。	相談を受けたときに、現在の状況을できるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合は、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話や得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが能力に応じて活躍する場面を作っている。	入居者のされていた仕事の話や得意分野のことを教えて頂き、入居者一人ひとりが能力に応じて活躍する場面を作っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホーム便りににおいて利用者の近況を写真で報告したり、行事の予告を行い家族の参加を呼びかけたりして、関係を築いている。	面会時やホーム便りににおいて利用者の近況を写真で報告したり、行事の予告を行い家族の参加を呼びかけたりして、関係を築いている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人が訪問された時は、近況を伝え、ゆっくり過ごしやすいよう配慮している。職員が間に入り会話のお手伝いをすることもある。馴染みの場所を通して買い物に行くようにしたり、ご家族の協力で、馴染みの場所へ外出する利用者もいる。	馴染みの人が訪問された時は、近況を伝え、ゆっくり過ごしやすいよう配慮している。職員が間に入り会話のお手伝いをすることもある。馴染みの場所を通して買い物に行くようにしたり、ご家族の協力で、馴染みの場所へ外出する利用者もいる。	知人や友人の面会がある。継続的な交流が出来るように職員が間に入り、ゆっくり過ごしてもらうよう配慮している。外出時も馴染みの場所を通るなど、馴染の関係を断ち切らないようにしている。家族と一緒に出かけられることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席順を配慮したり、職員が間に入るなどして、孤立せず関わり合えるよう努めている。また、時間を教えたり、職員見守りのもとで入居者が車いすを押したりして、お互いに支え合えるよう支援している。	席順を配慮したり、職員が間に入るなどして、孤立せず関わり合えるよう努めている。また、時間を教えたり、職員見守りのもとで入居者が車いすを押したりして、お互いに支え合えるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、サービスの紹介や相談にのる等の支援を行っている。	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば、サービスの紹介や相談にのる等の支援を行っている。		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時はもちろん、ケアプラン作成時も本人や家族の思いや意向の把握を行っている。意思疎通が困難な場合には、表情などを見ながら本人本意に検討を行っている。	入居時はもちろん、ケアプラン作成時も本人や家族の思いや意向の把握を行っている。意思疎通が困難な場合には、表情などを見ながら本人本意に検討を行っている。	日常の関わりの中で声をかけ、把握に努めている。言葉や表情からその真意を推し測り、それとなく確認するようにしている。本人にとって何が大事かを考えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の病歴や生活歴、ADLの状況や暮らしぶり等を本人や家族、担当ケアマネジャーからの聞き取りにより把握するよう努めている。	入居前の病歴や生活歴、ADLの状況や暮らしぶり等を本人や家族、担当ケアマネジャーからの聞き取りにより把握するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態を記録し、1日の過ごし方や心身の状態、本人の有する力等を把握するように努めている。	毎日の状態を記録し、1日の過ごし方や心身の状態、本人の有する力等を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員で検討会議を開き、本人や家族の意見や要望を反映させたケアプランを作成している。	職員全員で検討会議を開き、本人や家族の意見や要望を反映させたケアプランを作成している。	本人や家族の意向を確認し、職員全員で話し合い、担当する介護支援専門員が本人本意(自立に向けた)介護計画を作成している。変更が必要な時は随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録で情報を共有している。	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心掛けている。入居者一人一人に担当をつけており、細やかな記録で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアに来ていただいたり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。	ボランティアに来てもらったり、運営推進会議に地元の民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それま でのかかりつけ医の診療を継続さ れている。協力医療機関へは職員 が受診の介助を行っている。	本人や家族の意向に応じて、それま でのかかりつけ医の診療を継続さ れている。協力医療機関へは職員 が受診の介助を行っている。	利用者や家族の希望されるかかり つけ医の継続を支援しているが入 居と同時に主治医を変更されるケ ースが多い。週1回の定期往診にて健 康管理出来ている。医療機関が隣 接していることは、家族の安心につ ながっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪 問看護師等に伝えて相談し、個々の利用 者が適切な受診や看護を受けられるよう に支援している	医療連携をしている訪問看護の看 護師と、随時情報交換をし、必要な 指示をもらっている。	医療連携をしている訪問看護の看 護師と、随時情報交換をし、必要な 指示をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。又は、そうした場合に備え て病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は安心して治療を受けられ るよう情報提供を行っている。また 早期退院に向けて情報交換等を行 い、病院関係者との関係作りに努め ている。	入院時は安心して治療を受けられ るよう情報提供を行っている。また 早期退院に向けて情報交換等を行 い、病院関係者との関係作りに努め ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作 成し、入居時に説明を行い、意向の 確認をとっている。主治医や訪問看 護師と連携して支援を行い、情報の 共有に努めている。必要があれば 随時、本人や家族に繰り返し説明 し意向の確認を行い、変更があれ ばすぐに対応している。	重度化した場合の対応の指針を作 成し、入居時に説明を行い、意向の 確認をとっている。主治医や訪問看 護師と連携して支援を行い、情報の 共有に努めている。必要があれば 随時、本人や家族に繰り返し説明 し意向の確認を行い、変更があれ ばすぐに対応している。	主治医、訪問看護との連携により看 取りの実績がある。本人・家族の意 向は随時確認が行われ、変更が必 要な時は適切な対応が行われている。 看取り支援に必要な研修も随時 行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応マニュアルを作成しいつでも閲覧できるようにしている。また救急救命の研修を定期的に行い、AEDの使い方や心肺蘇生法を訓練し身に付けている。	急変時の対応マニュアルを作成しいつでも閲覧できるようにしている。また救急救命の研修を定期的に行い、AEDの使い方や心肺蘇生法を訓練し身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を行っている。訓練については、地震や火災による避難訓練、夜間を想定した訓練を行っている。地元消防団にも協力を依頼し、入居者の状態や避難経路等を伝えている。	年2回、防災避難訓練を行っている。訓練については、地震や火災による避難訓練、夜間を想定した訓練を行っている。地元消防団にも協力を依頼し、入居者の状態や避難経路等を伝えている。	年に2回、防災機器メーカーの業者の指導の下、昼夜を想定した火災時の通報、消化、非難の訓練が実施されている。併設施設の職員の支援もある。災害に備えた生活用品の備蓄は併設施設の協力がある。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	入居者は、「人生の大先輩である」と言う事を機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	理念にも「利用者の人格の尊重」と謳っており、馴染みの関係の中にも、節度のある言葉かけと対応が行われている。日常的な確認と改善に向けた取り組み行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識して造り、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりせず、本人のペースに合わせて支援を行っている。	本人の気持ちを最優先にしたケアを心がけている。職員の都合で切り上げたり、急かしたりせず、本人のペースに合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。	職員は個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人など、希望に応じて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしている。	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしている。	管理栄養士の作成した献立を提供されている。食形態についてもその人に応じたものが提供され、利用者と職員が一緒にテーブルを囲み、同じものを食べ楽しい雰囲気づくりが行われている。食事の後は食器拭きなど出来ることを一緒に行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者でも、日中は可能な限りトイレに誘導している。	日中はトイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し、排泄の自立に向けた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。	毎日ティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	入居者の希望に合わせて援助している。入浴が嫌いな入居者には、言葉のかけ方を工夫をしている。時間帯も本人のペースを尊重している。	週2回の入浴支援を基本とし、毎日入浴できる環境が整っている。個浴、一人ひとりお湯は交換している。異性の介助を嫌がられるときは、同性の介助に交代し、安心して入浴を楽しんでもらえるよう配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分です自然に眠れるように援助している。	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分です自然に眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。	入居者の持てる能力や希望に応じ、茶碗拭き、洗濯物たたみ、テーブル拭きなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望や状態によって買い物や散歩などの外出を支援することで、入居者が季節を感じ気分転換できるよう努めている。。家族の協力のもと、自宅や馴染みの場所へ外出することも多く、ご家族と過ごす時間も大切にしている。	入居者の希望や状態によって買い物や散歩などの外出を支援することで、入居者が季節を感じ気分転換できるよう努めている。。家族の協力のもと、自宅や馴染みの場所へ外出することも多く、ご家族と過ごす時間も大切にしている。	日常的に敷地内の散歩に出かけている。近くの店におやつや買物にでかける時もある。遠くに出かける機会は少なくなっているが、近くで季節感を感じてもらおう工夫もされている。個別の外出は家族の支援もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の状態により、高額にならない程度のお金を持って頂いている。施設の買い物の際には、利用者に支払いの役割をお願いしている。	本人の状態により、高額にならない程度のお金を持って頂いている。施設の買い物の際には、利用者に支払いの役割をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。電話をかけたいと要望があれば、その都度支援を行っている。	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。電話をかけたいと要望があれば、その都度支援を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価／ユニットA() (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB() (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	過ごしやすい明るさや室温等に配慮し、花や飾り物などで季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、わかりやすく家庭的な雰囲気に努めている。	過ごしやすい明るさや室温等に配慮し、花や飾り物などで季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。各居室の表札やトイレの表示を手作りで作成し、わかりやすく家庭的な雰囲気に努めている。	事業所内は見通しがよく、廊下には天窓が設置されており、自然の採光が届くよう配慮されている。居間兼食堂には大きな鏡があり、広がりのある空間となっており、壁に利用者と一緒に作成した季節の作品が掲示され、心和むスペースとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。	廊下を含む共有空間を広く取り、リビングには畳を使用している。応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。外にはベンチも配置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	居室は広く取り、家具等の持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真等、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	本人や家族と相談し、使い慣れたものや好みのものを生かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫がされている。家族との写真が飾られ本人が落ち着いて過ごせるための工夫が行われている。居室の表示もよく目立つ手作りの表示がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けのまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台等、適当な高さになっている。物干し台の高さも調整し、入居者が使いやすいように配慮し、浴室やトイレの床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)			1. ほぼ全ての利用者の
		○	○	2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	○	1. 毎日ある
				2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)			1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○	○	3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	○	1. 大いに増えている
				2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	○	1. ほぼ全ての職員が
				2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない